

[TPN 粉剤]

# ダコンイル

有効成分：TPN（化管法1種）…………… 10.0%

性 状：	類白色粉末	45 $\mu$ m以下
毒 性：	-	
危 険 物：	-	
有効年限：	5年	
包 装：	3kg $\times$ 8袋	20kg $\times$ 1袋

ダコンイルは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

## 〔特長〕

- あぶらな科野菜の土壌病害（根こぶ病、根くびれ病）にすぐれた防除効果を発揮する。
- あぶらな科野菜に対し、薬害の心配が少ないので安心して使える。
- 麦類（秋播）の縞萎縮病に適用がある。
- は種または定植前に肥料などと混用して使える。

## 〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
はくさい	根こぶ病	10g / 植穴1穴	は種又は定植前	1回	植穴処理土壌混和	3回以内 (は種又は定植前の土壌混和：1回以内、 散布及び無人航空機 散布：合計2回以内)
		30kg / 10a			作条施用土壌混和	
	根くびれ病	30~40kg / 10a			全面施用土壌混和	
根こぶ病		5~10g / 植穴1穴	作条施用土壌混和			
	30~40kg / 10a	植穴処理土壌混和	3回以内 (は種又は定植前の土壌混和：1回以内、 散布、無人航空機 散布及びエアゾル剤 の噴射：合計2回以内)			
かぶ	根こぶ病 根くびれ病	20~40kg / 10a	は種前	1回	作条施用土壌混和	1回
麦類 (秋播栽培)	縞萎縮病	20~30kg / 10a			全面施用土壌混和	
		10~20kg / 10a			作条施用土壌混和	

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の所定量を植穴、作条または全面に散布し、土壌とよく混和する。
- 後作としてのトマト幼苗などには薬害を生じるおそれがあるので、本剤施用後十分な期間(3ヶ月以上)を経過しない圃場はトマトなどの苗床に使用しない。

## ⚠ 安全使用上の注意

- 誤食などに注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、医師の手当を受ける。

- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 夏期高温時の使用をさける。



- 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。また、粉末を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯する。



- かぶれやすい人は作業に従事しない。施用した作物等に触れない。



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



- 魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意する。養殖池周辺での使用はさける。水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。

[保管]：直射日光をさけ、子供の手のとどかないなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

化管法に対応するその他の注意事項は別表の分類6に表示してある。

---

農業登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（14021）、住友化学（21329）  
販売：住友化学

---

### [上手な使い方]

- 植 穴 処 理：所定量を植穴に施用し、周辺の土とていねいに混和したのち、は種または定植する。（植穴は直径15cm、深さ15cmを標準とする。）
- 作条・全面施用：散粉機などで所定量を出来る限りていねいに均一にまき、深さ15cmの土とよく混和した後、は種または定植する。